

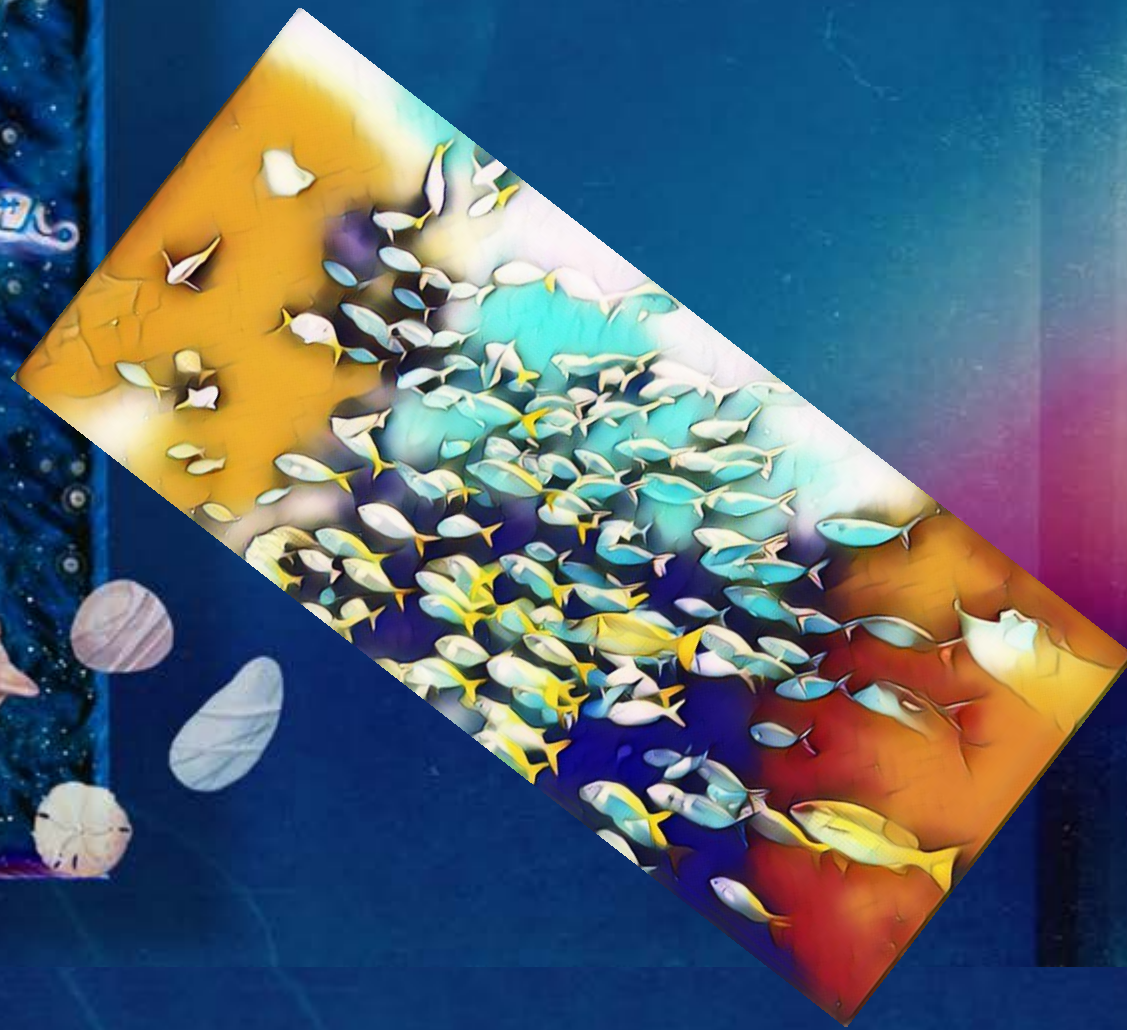


環境破壊から海を救うためのメッセージ

かえつ有明高等学校1年


熊倉 友音

わたしが生きる世界と時の中で、海はどんな物を感じていますか？
それは、どんな色と音で息をしていますか？
海に触れることは、出来ますか？
私の生きる、この時代では見当が付きません。
しかし、さぞ美しいのでしょう。
2121年、この時代に海はありますか？
もとも、永遠に奥の広がる
空ほどの水槽ですか？
陸はあつ、海に生きた生命
は、消えてしまいました。



2021年、あなたの住む世界から100年の時
が過ぎた今、人類の手に余るほどの
進化も遂げました。しかし、人類が持った
ほどの技術は、間違えた方向に進んでしま
うのだと願っています。海に生きる生命が
減りく世界ごと。
私は、海に生きた命を再現が可
なり目にしたことがないのです。
この目で、海に直接触れ、感じ、
そのおへを安んじたい。
核兵器の発射で犠牲になった海の中の
残骸が、流れ着く砂浜など見たこと
ないのです。二度と。



100年の時を経て、地球は変わり果てたのではありませんか。
宇宙旅行には簡単に手が届く。
世界の反対側には30分で着きます。
家事は、全て有能なAIロボット
が完璧にこなしてくれます。
あなたには、この世界はどんな風に変わ
りますが、人が思い描いた未来を
なぞっていますか。
遠い未来に存在する夢の世界でも
表現しでしょうか。
その代償として地球は多くを
失ってしまったのに
夢の世界なんて失われてしまつては。




排気が又下流の空の下
海は工場から流れ出した化学物質
で汚れた、酷く汚染された東京の
海は、触れたのなら肌が腫れ上がる
ほうです。
そんな海で命が紡げるはずが
ないのです。
彼らはどれほど苦しんだのかわからず
と想像を絶するほどの痛みを
苦しんだたと思うのです。
私には救うことが出来なかった。
悔しいです。




ご主人、あなたのため2021年に
この手紙を託したのは
ほかでもないあなたに聞いてほし
願いがあふれます。
海の命を救ってほしい、それが私の
願いです。どうか無謀な願ひはなして
諦めないで。あなたの周りの人達にも
その声で、伝えてほしいのです。
声を上げることが叶わなかった海に生かす命と
再現オロケ人の中でしか息の出来ないあなた海月の
変わりり。



いつか、あなたと海の長い旅が始まります。
それはきっと不安で果てしない。
けれど、朝日は昇ります。
長い長い旅の果てで
あなたに出会えることを
願っています。
海で短く生命と人類を繋ぐために。
全ての海に宿る命と共に。





2021年8月下旬、駅前の広場に設置された錆び付いた単管パイプステージの上で一人佇む少女の姿があった。暑いからと過ぎ去って行く人々に今日も彼女は、声を上げている。

「その手をゴミを投棄するためじゃなくて、珊瑚を植え、海に散らばる不法投棄されたゴミを拾うために使ってほしい、そう願います。私たちが思い描くもっと先の未来に美しい海とそこに生きる命を守るために。」

そのステージの前で私は初めて足を止め、少女の青く輝く瞳を捉えた。

「私も、この手で救いたい。」

あの手紙を私は信じる、でもきっと100年後の旅の果てで美しい海に出会えるそう思う。だって、一人ではないのだから。